

小・中学校の学習のつながり

小・中学校の理科の学習の進め方の違い

小学校でも中学校でも、理科の学習は観察・実験を通して探究的に進めることが望ましいと考えられています。しかし、小学校の理科では、**試行錯誤的な活動(発見的な活動)**が多いのに対し、中学校の理科では、**明確な予想に基づき、計画的な(場合によっては指示されたとおりの)活動が多くなる**傾向があります。これは、小学校では内容理解よりも、理科(自然科学)に興味・関心をもたせることや理科で用いる方法になれさせること、すなわち**理科を学習する態度を身につけさせることを重視**しているのに対し、中学校では、**内容理解を重視**するためです。

また、小学校で扱う内容は比較的単純で、児童に自由に活動させてもそれなりの結果が得やすいのに対し、中学校では、扱う内容が高度になり、特に定量的な結果を得るためにはどうしても教員からの指示が多くなります。とくに、小学校とちがって危険な薬品が登場する化学分野では、実験方法を学習者に自由に選ばせることができない事情もあります。学習指導要領に記されている目標については、小・中学校間で大きな差はありませんが、それぞれの理科で重視しているものが異なっているのです。

しかし、小・中学校間でギャップがあるのは当然のことです。大切なことは、ギャップを理科嫌いのきっかけにするのではなく、小学校とは違うという期待感や充実感に変えていくことです。そのためには、まずは小学校でどのような内容が、どのように扱われているのかについて、中学校の先生方にも理解していただきたいものです。大がかりなものでなくても、小学校の理科の授業を参観したり、小学校の教科書や指導書に目を通したりするだけでも、気づくことは多いと思われます。

また、小学校で中学校とよく似た内容が扱われていても、それぞれの授業の中で重視しているポイントが異なるので、中学校の授業の中で「それは小学校で学習済みのはず」と簡単に片づけることにはリスクが伴います。場合によっては、中学生の視点でもう一度同じ観察や実験を繰り返すことが必要になる場面も、少なからずあるはずと思われます。

小学校での学習に比べると、中学校での理科の学習は自由度が少なく、指示も多くなり、「楽しくない」と不満を感じる生徒が出てくるのも事実です。そこで、「なぜ与えられた指示が必要なのか」としっかり考えさせ、「小学校とはちがって、高度なことをやっているんだ」と生徒をポジティブな気持ちにする配慮は非常に大切です。答えはそう簡単には見つからないものですが、小・中連携の第一歩を具体的に進めていきましょう。



Handwriting practice area with 15 horizontal dashed lines.

Large empty rectangular box for drawing or writing.

Medium empty rectangular box for drawing or writing.

Medium empty rectangular box for drawing or writing.

Large empty rectangular box for drawing or writing.

Large empty rectangular box for drawing or writing.